

教育・研究などへの取組状況(令和6年度)

| | |
|------------|-------|
| 総合工学システム学科 | 系・コース |
| | 一般科目系 |
| 職階 | 氏名 |
| 講師 | 松井 悠香 |

| 項目 | 取組状況 |
|------|---|
| 教 育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 令6年度担当科目 ①英語3,4(本科2年)、②英語表現3(本科3年)、③英語IV(本科4年) ● 担当科目の取組状況(工夫・改善した点) ①この授業は英文読解を学ぶものであった。昨年度までのスタイルを見直し、文の構造の理解や代名詞の特定、新しい語彙や表現の意味など、英文を読むために必要な情報を全てプリントにまとめた。また、各パッセージについて「まとめ」を提出してもらうことで、内容の理解を深めるようにした。授業の予定や課題の提出日はウェブ上で確認できるようにして、学生がいつでもチェックできる環境を整えた。 ②プレゼンテーションのクラスを担当した。意見表明と動画作成の2つの側面から進めた。意見を述べる際には、テーマに対して理由や具体的な例が書けるように指導し、動画作成では聞き手に分かりやすい英語の原稿を作成し、視聴者の理解を助ける動画や画像を使うように指示した。 ③この授業は英文読解に特化していたが、使用された語彙や表現をしっかりと定着させることにも重点を置いていた。授業内では、英文読解や語彙に関する問題に取り組む時間を十分に設け、全ての学生が活動に参加できるよう工夫した。また、学生に提供した資料は全てウェブ上で共有し、アクセスしやすいように配慮した。 |
| 研 究 | <ul style="list-style-type: none"> ● 該当年度の研究テーマ:「成功した授業外英語学習とはなにか？」 ● 学術論文執筆: ● 松井悠香. (2025). 「高専における授業外英語学習の実施状況と継続のための条件とは? - 学生への質問紙調査と教員へのインタビュー調査結果より -」『言語学習と教育言語学:2024年度版』 pp. 48-55. |
| 社会貢献 | <p>第10回教養セミナー(2025年3月4日火曜日実施)</p> <p>「交流分析(TA)のご紹介と、その活用法について」～職場や家庭での人間関係を円滑にするための自己分析～ 講師</p> |

<記入上の注意>

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

| | |
|------------|-------|
| 総合工学システム学科 | 系・コース |
| | 一般科目系 |
| 職階 | 氏名 |
| 講師 | 松井 悠香 |

| 項目 | 取組状況 |
|------|--|
| 教 育 | <p>● 令和5年度担当科目 ①英語1,2(本科1年)、②英語表現Ⅲ(本科3年)、③特別研究(本科3年) ● 担当科目の取組状況(工夫・改善した点) ①本科1年生が対象のため、板書の徹底をさせるために配布プリントでは行間を広くし、十分にメモがとれるデザインにした。セクションが終わる毎、教科書英文の空所補充小テストを実施した。実施した小テストは教科担当が採点し授業内に返却した。教科書の新出語彙・表現定着を図るため、Quizletを配信した。 ②教科書の文法は既習事項が主だったため、学生が個人のペースで演習ができるよう Google Forms を使用した。ただし、和文英訳は解答にばらつきがあるため、教科担当が解説をした。なお、プレゼンテーション原稿はすべて Google Classroom 上で提出をさせ、教科担当は修正が必要な箇所にコメントを入れた。原稿は NET による修正もおこなった。プレゼンテーションの実施に向けて、ルーブリックを共有し、「伝わる英語」とはどういうものなのかを学生と一緒に考えた。 ③「宝塚歌劇への招待」と題し、授業をおこなった。研究発表に向けテーマを模索するため、映像を鑑賞した。研究テーマはどのような組織なのかという広いものからメイクの仕方といった狭いものになるように設定し、聞き手に配慮した発表順にした。リハーサル実施後、全員にコメントをメールし、改善策を提案した。</p> |
| 研 究 | <p>● 該当年度の研究テーマ:「成功した授業外英語学習とはなにか？」 ● 学術論文執筆: ● 松井 悠香. (2023). 「Google Forms を組み込んだ英文読解の授業研究—定期試験の誤答分析を通して—」『Asphodel 58号』pp. 52-73. ● 学外発表実績: ・授業外英語学習の可能性とは? 高専生を対象にした量的・質的データをもとに第16回 DWCLA 語学教師の会 2023年7月23日 ・授業外英語学習実現の条件とは? —高専英語教員へのインタビューデータから— 全国高等専門学校英語教育学会 2023年9月3日 ・高専における授業外英語学習の実施状況とその条件とは? —学生への質問紙調査と教員へのインタビュー調査結果より— 第201回次世代大学教育研究会(NextEdu-201)・教育の国際化研究会 2023年度第3回研究会 2024年1月27日</p> |
| 社会貢献 | |

<記入上の注意>

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和4年度)

| | |
|------------|-------|
| 総合工学システム学科 | 系・コース |
| | 一般科目系 |
| 職階 | 氏名 |
| 講師 | 松井 悠香 |

| 項目 | 取組状況 |
|------|---|
| 教 育 | <p>● 令和4年度担当科目 ① 英語1,2(本科1年)、②英語表現Ⅲ(本科3年)、③特別研究(本科3年)</p> <p>● 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</p> <p>① 本科1年生が対象のため、板書の徹底をさせるために配布プリントでは行間を広くし、十分にメモがとれるデザインにした。セクションが終わる毎、教科書英文の空所補充小テストを実施した。教科書英文内容の理解度ををはかるため、Google Forms を使用した英問英答を授業外学習として課した。教科書の新出語彙・表現定着を図るため、Quizlet を配信した。</p> <p>②教科書の文法は既習事項が主だったため、学生が個人のペースで演習ができるよう Google Forms を使用した。ただし、和文英訳は解答にばらつきがあるため、教科担当が解説をした。なお、プレゼンテーション原稿はすべて Google Classroom 上で提出をさせ、教科担当は修正が必要な箇所にコメントを入れた。原稿は NET による修正もおこなった。プレゼンテーションの実施に向けて、ルーブリックを共有し、「伝わる英語」とはどのようなものなのかを学生と一緒に考えた。</p> <p>③「宝塚歌劇への招待」と題し、授業をおこなった。研究発表に向けテーマを模索するため、映像を鑑賞した。</p> |
| 研 究 | <p>● 該当年度の研究テーマ:「成功した授業外英語学習とはなにか？」</p> |
| 社会貢献 | |

<記入上の注意>

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載